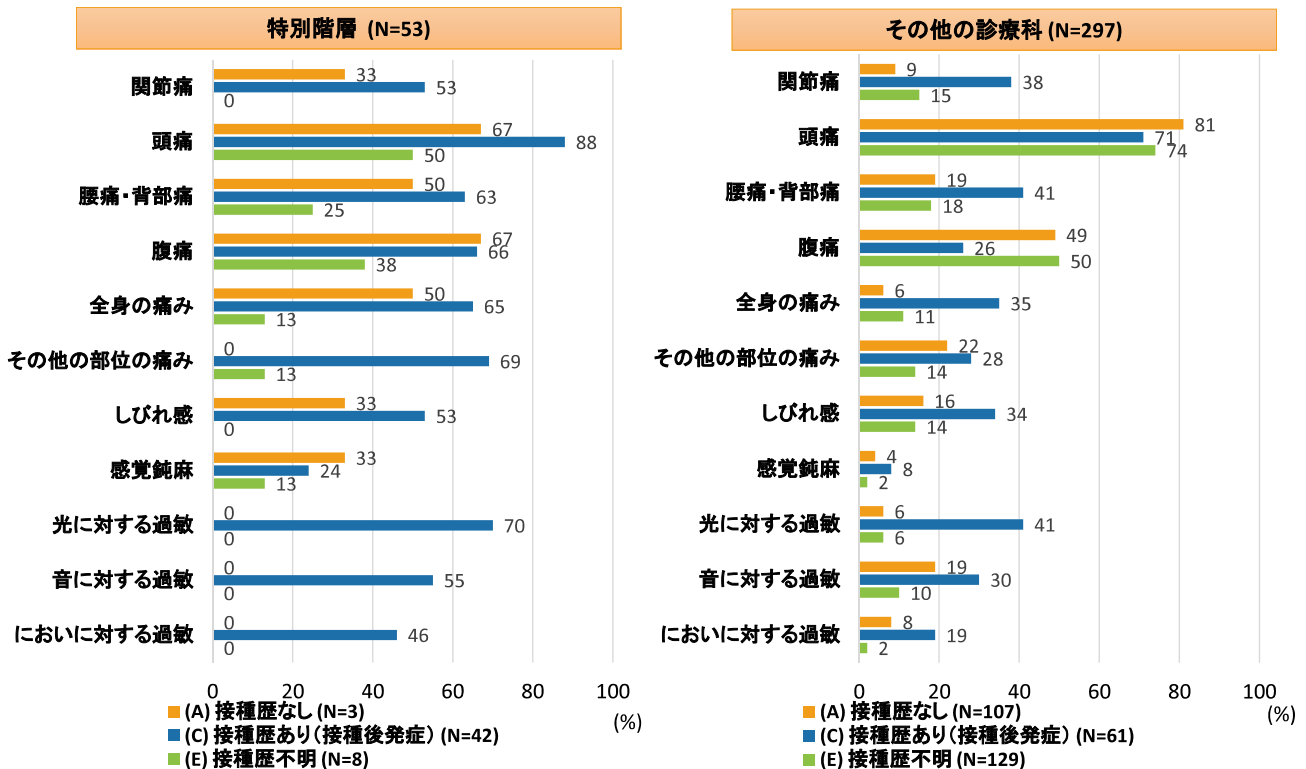


## 2 症状の層別分析

- 1) 年齢層別
- 2) 接種から発症までの期間別(女子接種者のみ)
- 3) 症状の持続期間別
- 4) 報告診療科別
- 5) 症状に関する主治医の判断・診断名別

### 二次調査報告症例(「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上) 個別症状の割合(1)(報告診療科別)

#### 疼痛および感覚(光・音・におい)の障害

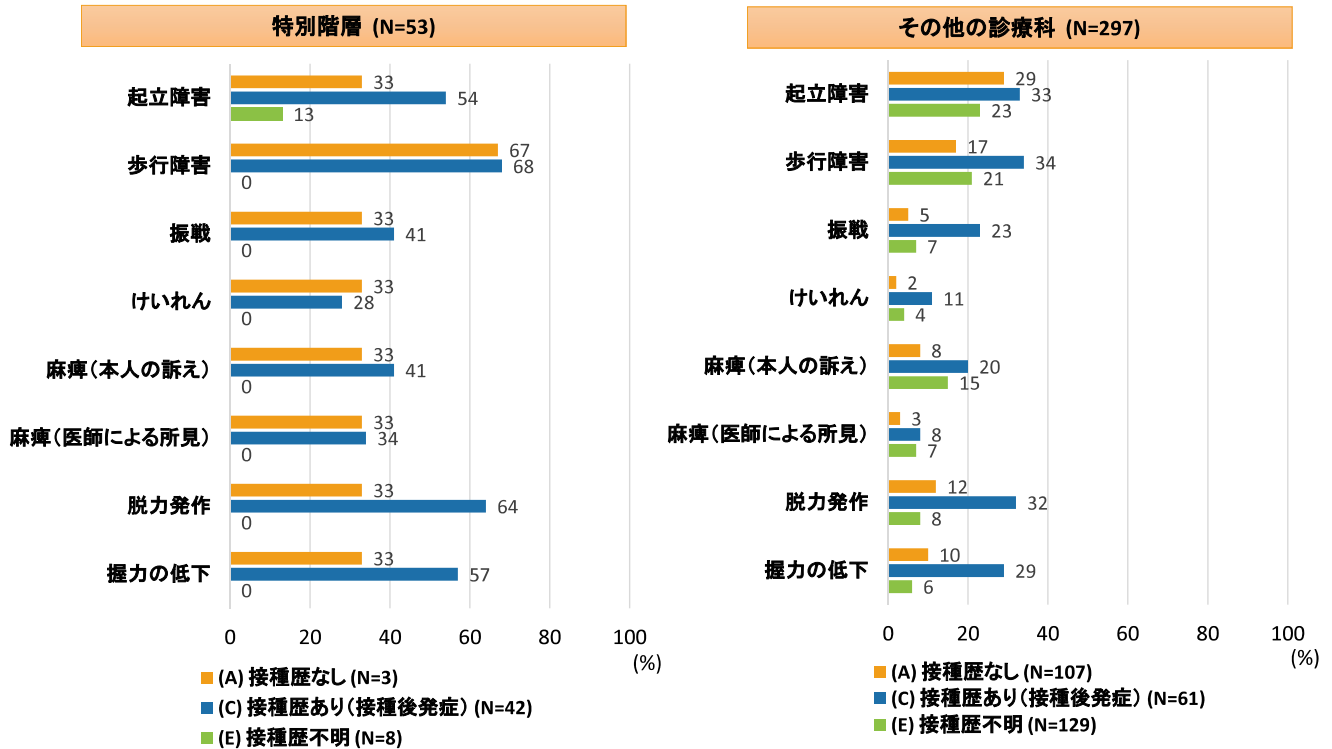


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
個別症状の割合 (2) (報告診療科別)

運動障害

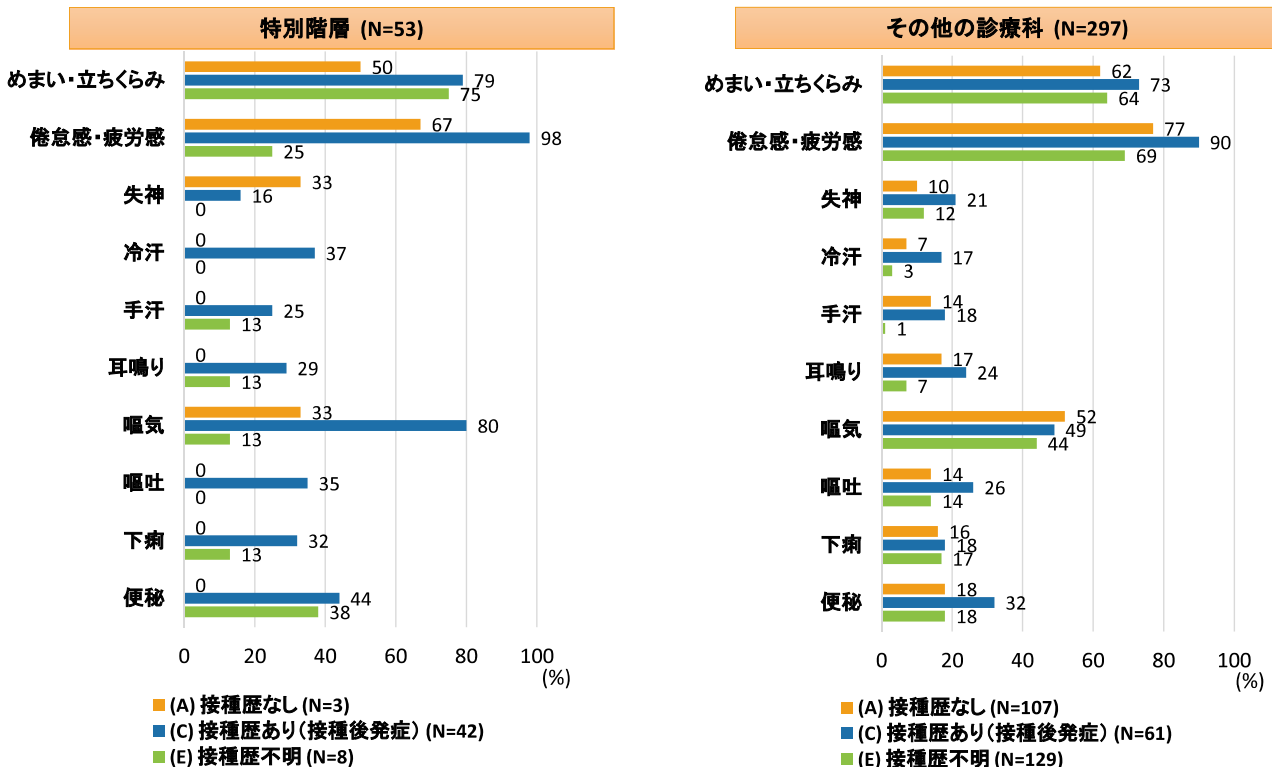


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

症状は調査期間(2015年7月～12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
個別症状の割合 (3) (報告診療科別)

自律神経症状など(1)

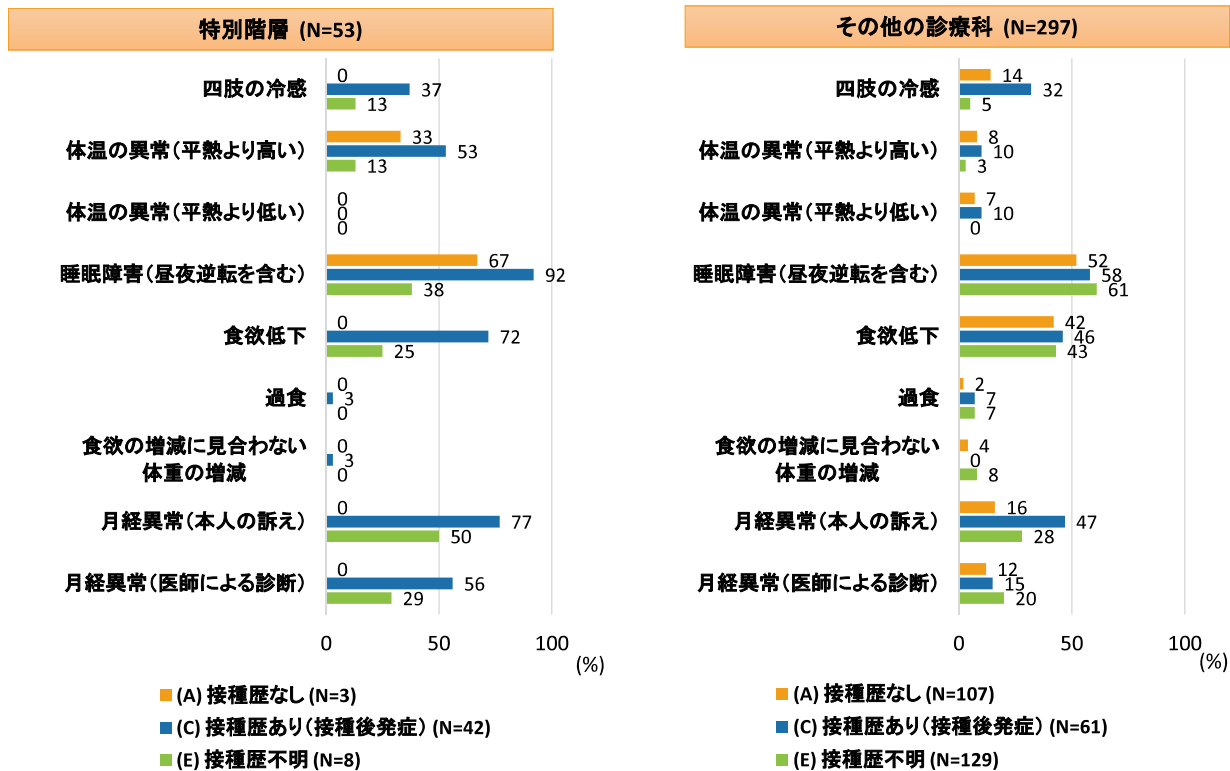


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

症状は調査期間(2015年7月～12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
個別症状の割合 (4) (報告診療科別)

自律神経症状など(2)

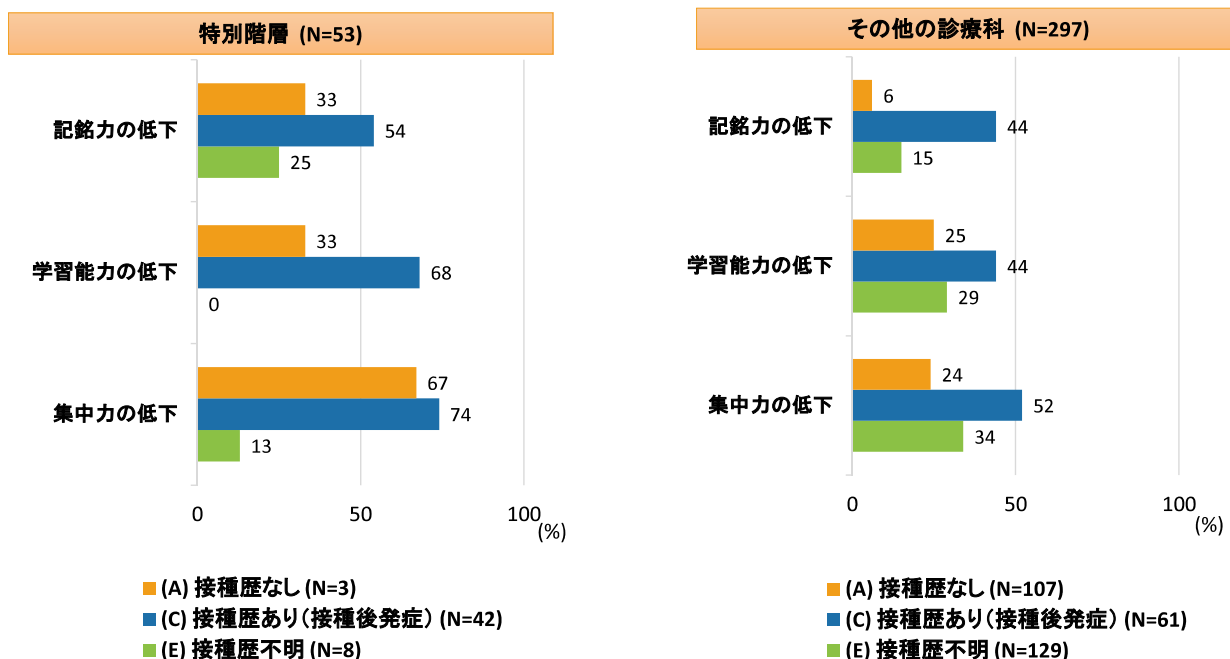


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

症状は調査期間(2015年7月～12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
個別症状の割合 (5) (報告診療科別)

認知機能の障害

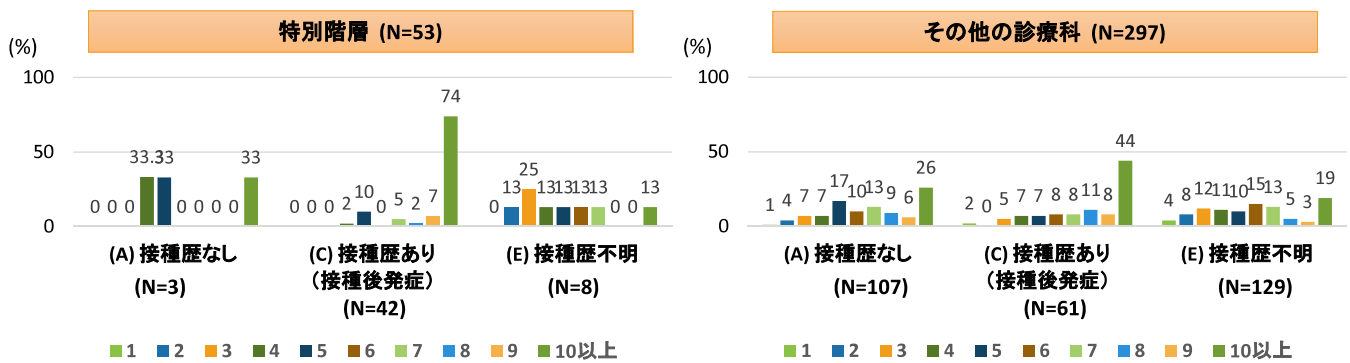


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

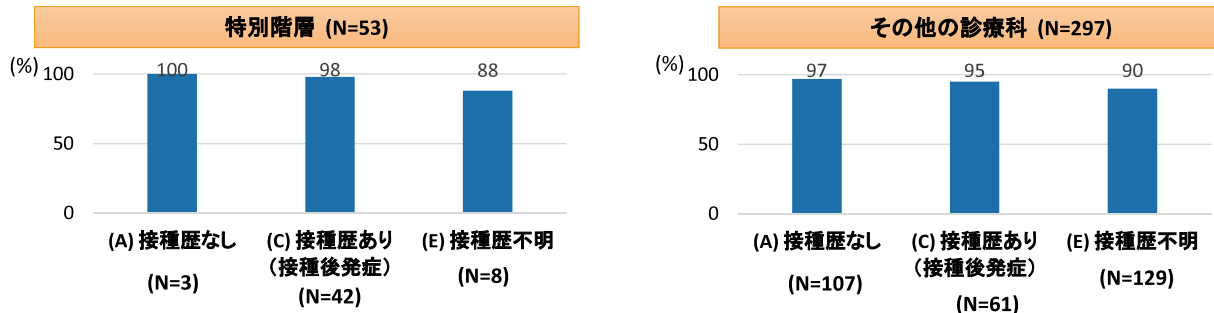
症状は調査期間(2015年7月～12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

## 二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上） 症状の全体的な傾向（報告診療科別）

### 症状の数別にみた割合



### 「疼痛」または「運動障害」の症状を1つ以上有する者の割合

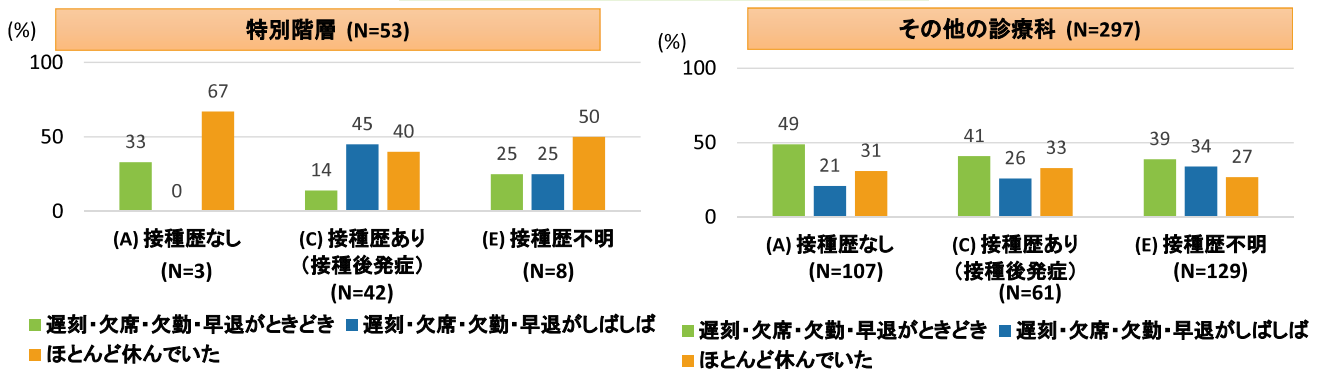


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

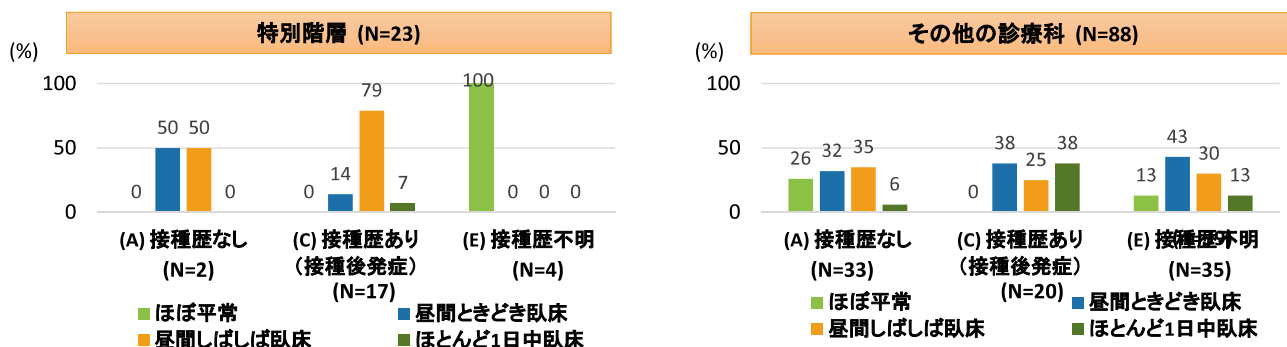
症状は調査期間(2015年7月～12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

## 二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上） 就学・就労状況（報告診療科別）

### 就学・就労状況



### 自宅での過ごし方（就学・就労状況で「ほとんど休んでいた」場合）



グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

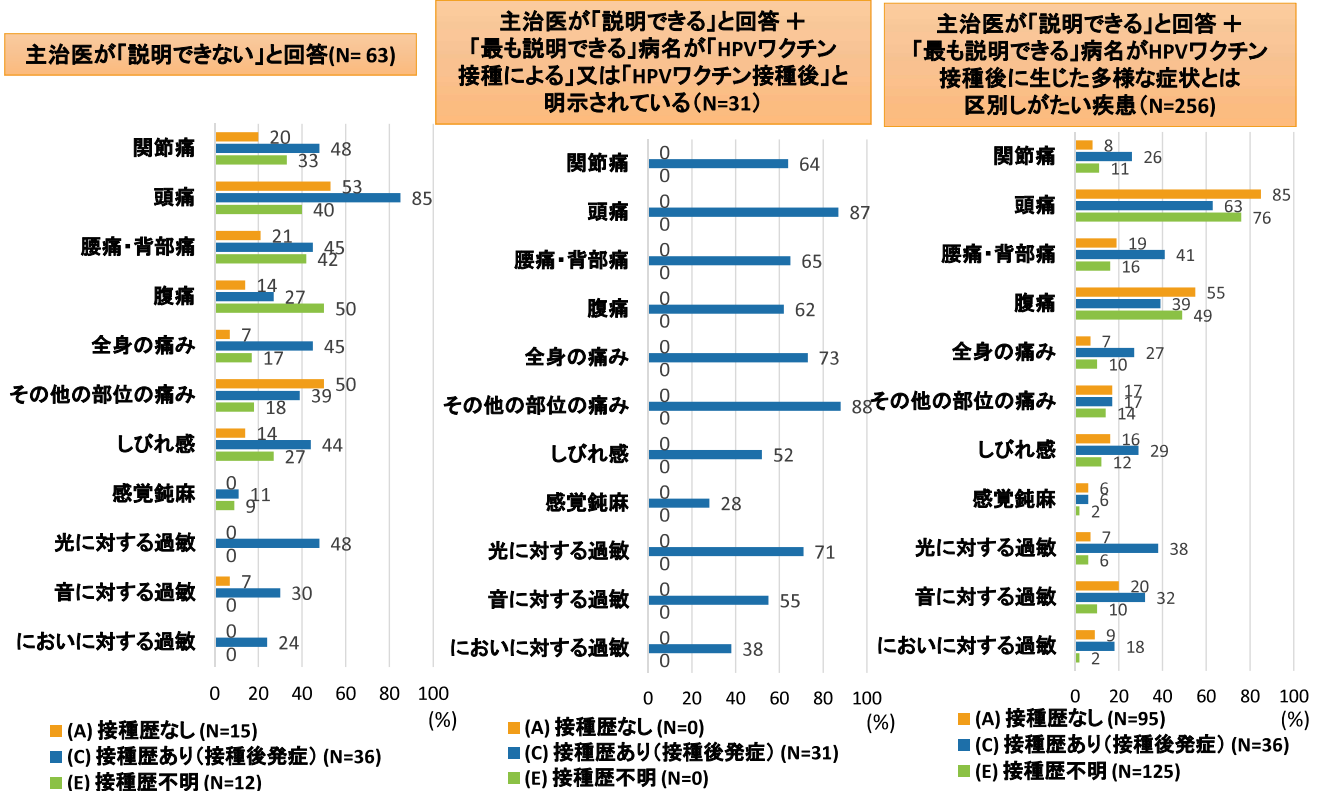
就学・就労状況は、調査期間のうち症状があった期間における平均的な状況。

## 2 症状の層別分析

- 1) 年齢層別
- 2) 接種から発症までの期間別(女子接種者のみ)
- 3) 症状の持続期間別
- 4) 報告診療科別
- 5) 症状に関する主治医の判断・診断名別

### 二次調査報告症例(「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上) 個別症状の割合(1)(主治医の判断・診断名別)

#### 疼痛および感覚(光・音・におい)の障害



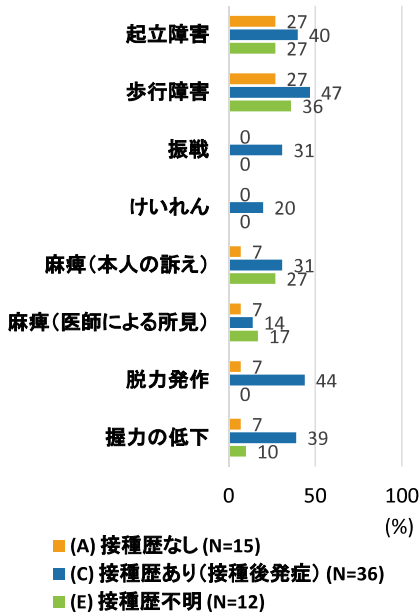
グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

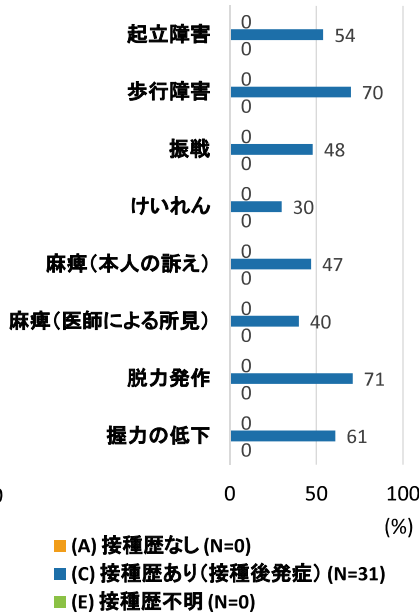
二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
個別症状の割合 (2) (主治医の判断・診断名別)

運動障害

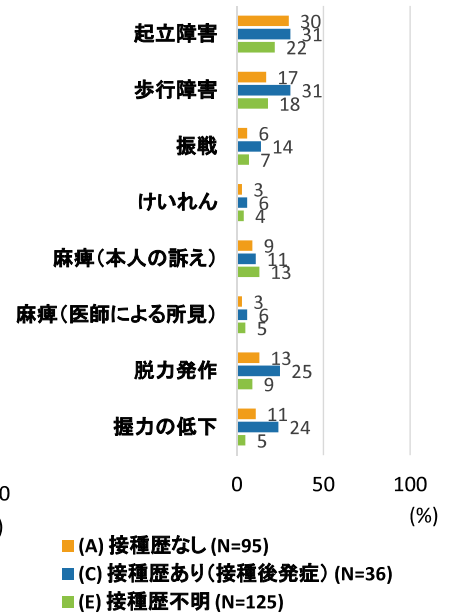
主治医が「説明できない」と回答(N= 63)



主治医が「説明できる」と回答 + 「最も説明できる」病名が「HPVワクチン接種による」又は「HPVワクチン接種後」と明示されている(N=31)



主治医が「説明できる」と回答 + 「最も説明できる」病名が「HPVワクチン接種後に生じた多様な症状とは区別しがたい疾患」(N=256)



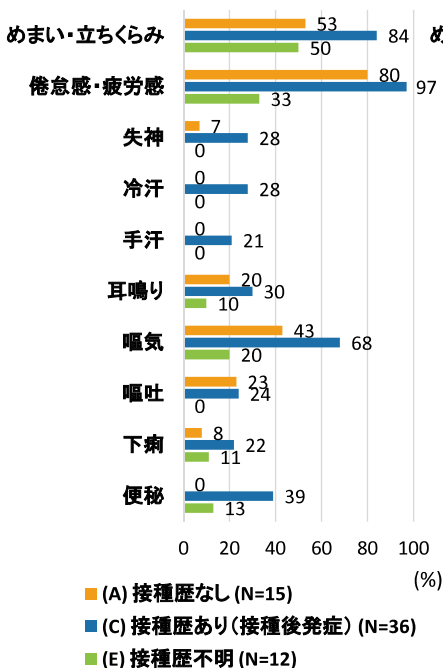
グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

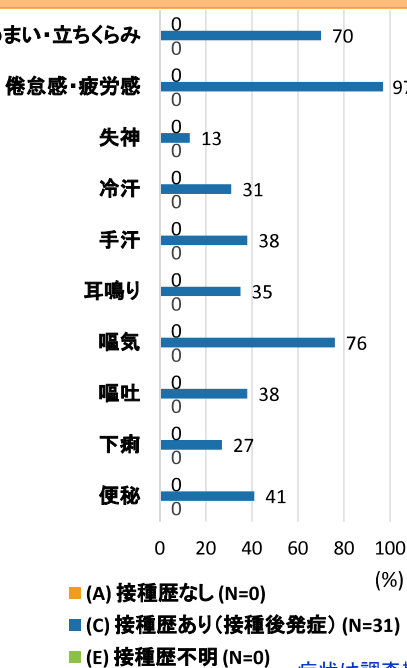
二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
個別症状の割合 (3) (主治医の判断・診断名別)

自律神経症状など(1)

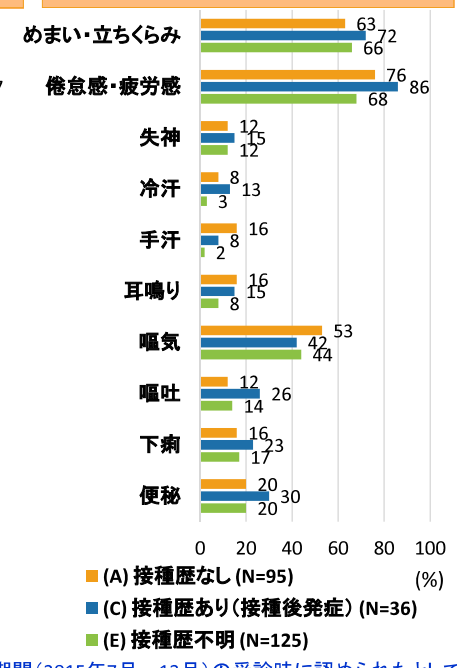
主治医が「説明できない」と回答(N= 63)



主治医が「説明できる」と回答 + 「最も説明できる」病名が「HPVワクチン接種による」又は「HPVワクチン接種後」と明示されている(N=31)



主治医が「説明できる」と回答 + 「最も説明できる」病名が「HPVワクチン接種後に生じた多様な症状とは区別しがたい疾患」(N=256)



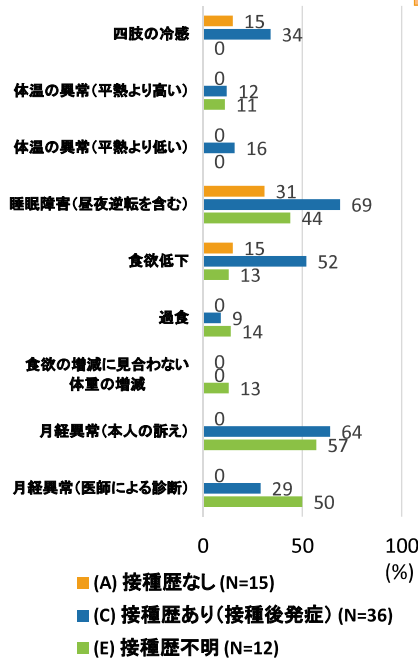
グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

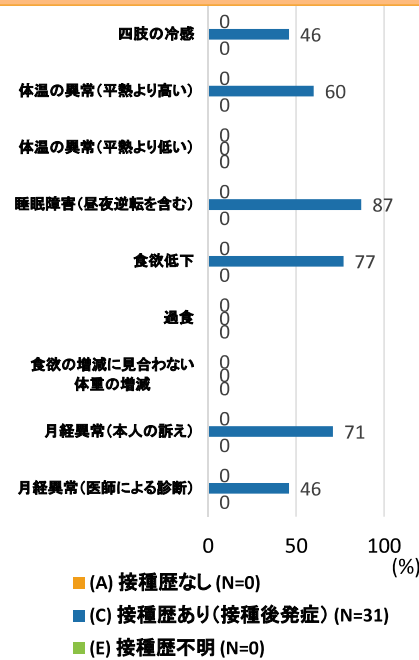
二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
個別症状の割合 (4) (主治医の判断・診断名別)

自律神経症状など(2)

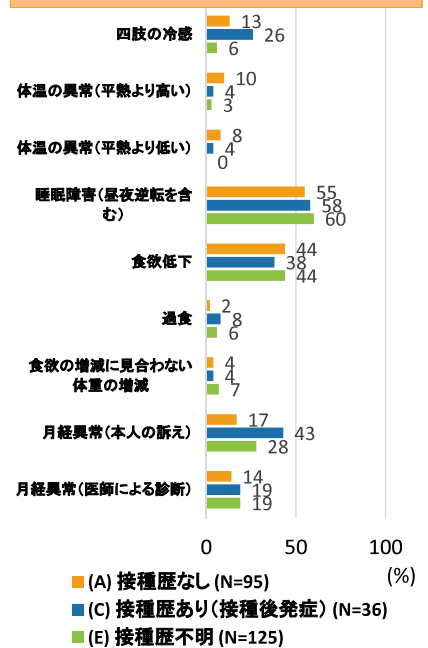
主治医が「説明できない」と回答(N= 63)



主治医が「説明できる」と回答 + 「最も説明できる」病名が「HPVワクチン接種による」又は「HPVワクチン接種後」と明示されている(N=31)



主治医が「説明できる」と回答 + 「最も説明できる」病名がHPVワクチン接種後に生じた多様な症状とは区別しがたい疾患(N=256)



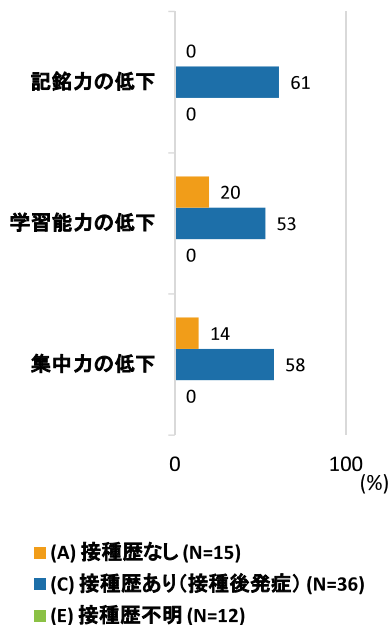
グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

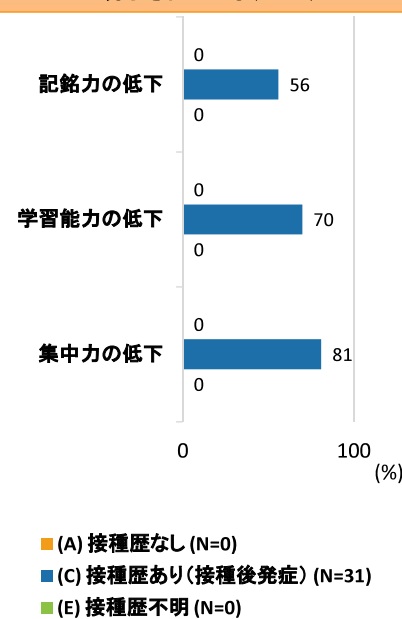
二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
個別症状の割合 (5) (主治医の判断・診断名別)

認知機能の障害

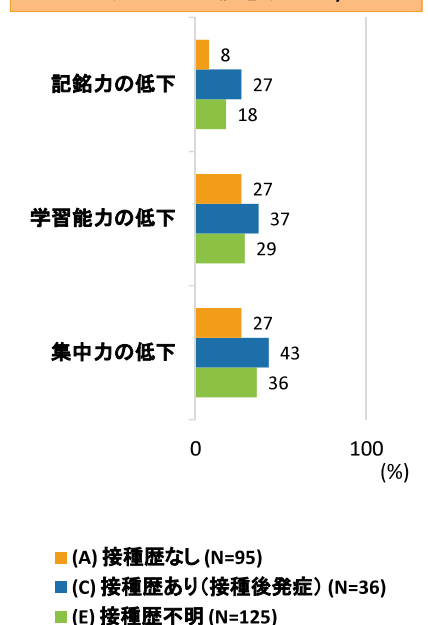
主治医が「説明できない」と回答(N= 63)



主治医が「説明できる」と回答 + 「最も説明できる」病名が「HPVワクチン接種による」又は「HPVワクチン接種後」と明示されている(N=31)



主治医が「説明できる」と回答 + 「最も説明できる」病名がHPVワクチン接種後に生じた多様な症状とは区別しがたい疾患(N=256)

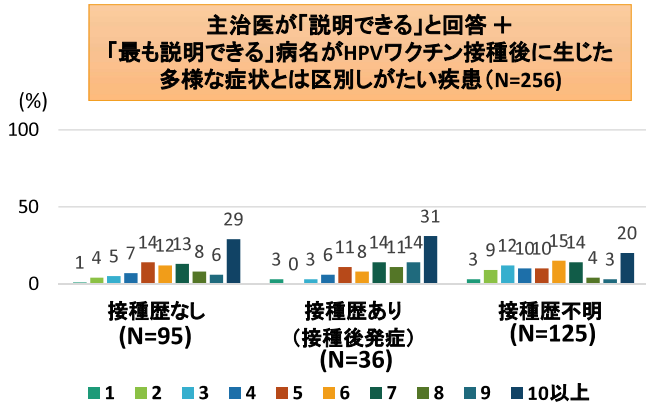
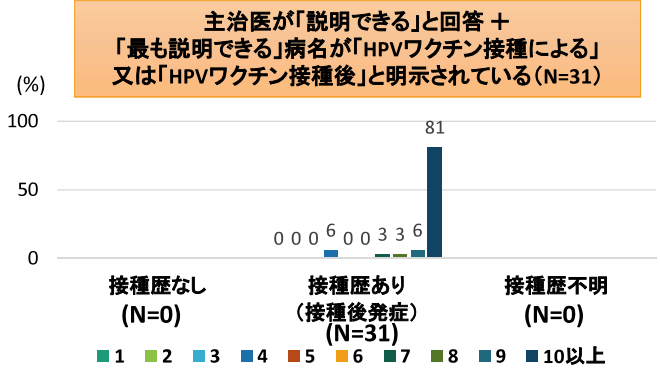
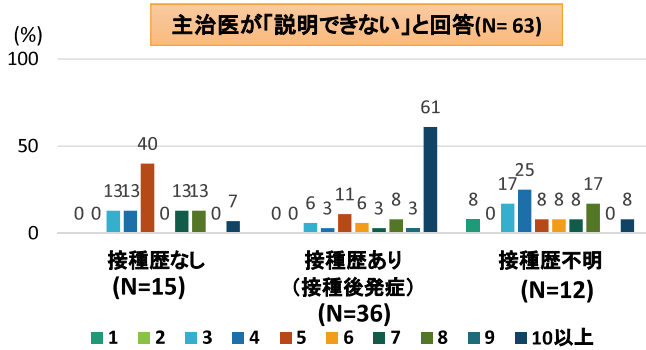


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

症状は調査期間(2015年7月~12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

## 二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上） 症状の全体的な傾向 (1) (主治医の判断・診断名別)

### 症状の数別にみた割合

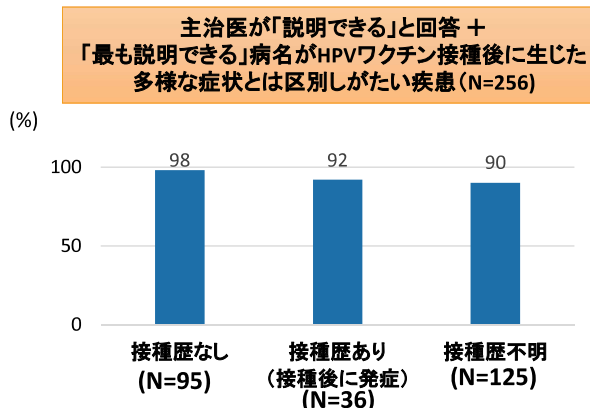
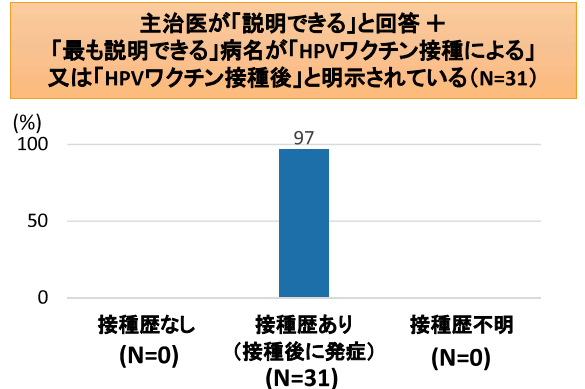
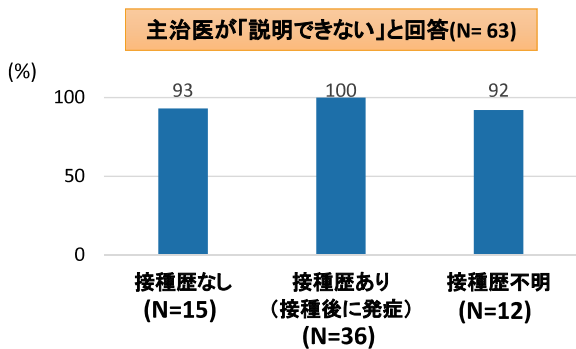


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

症状は調査期間(2015年7月～12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。

## 二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上） 症状の全体的な傾向 (2) (主治医の判断・診断名別)

### 「疼痛」または「運動障害」の症状を1つ以上有する者の割合



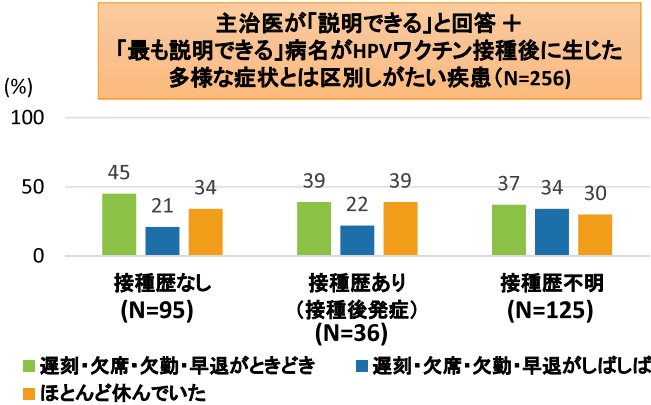
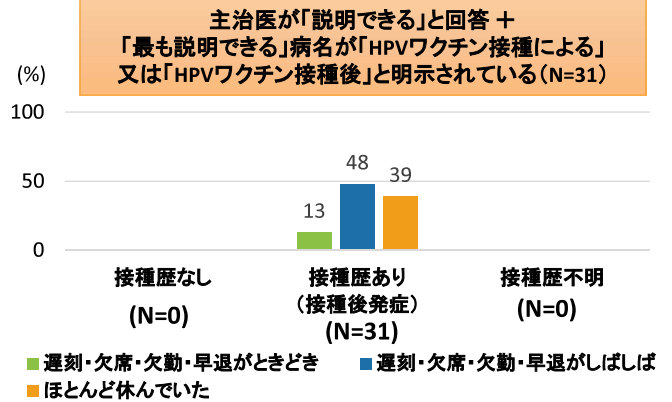
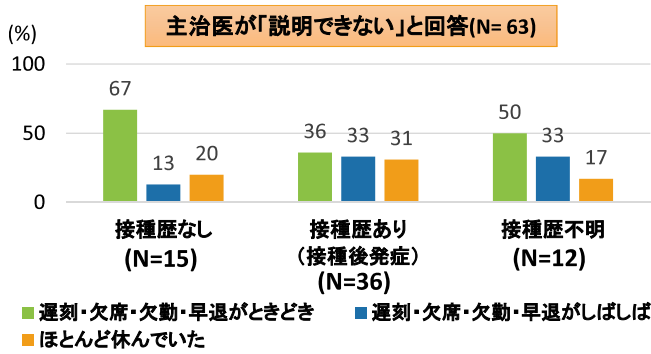
グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

症状は調査期間(2015年7月～12月)の受診時に認められたとして報告があったもの。



二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
就学・就労状況(1) (主治医の判断・診断名別)

就学・就労状況

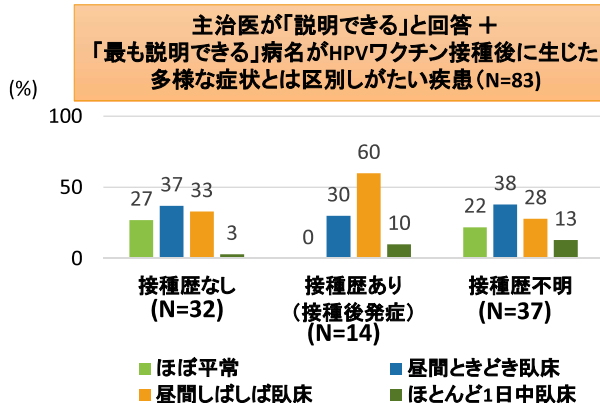
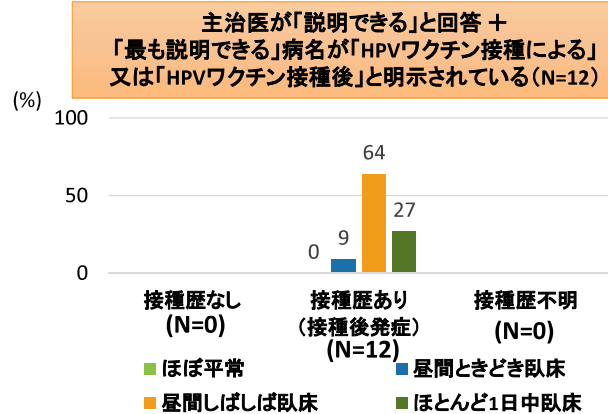
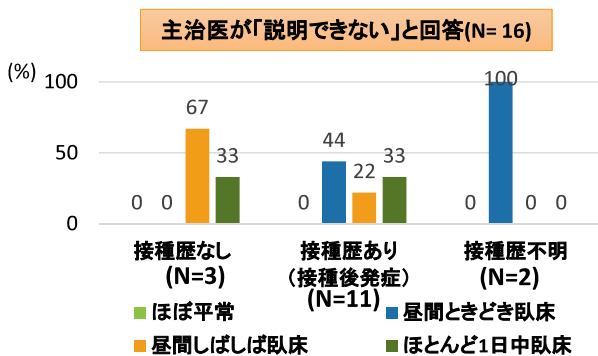


グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

就学・就労状況は、調査期間のうち症状があった期間における平均的な状況。

二次調査報告症例（「多様な症状」を有する女子・発症時年齢12歳以上）  
就学・就労状況(2) (主治医の判断・診断名別)

自宅での過ごし方（就学・就労状況で「ほとんど休んでいた」場合）



グラフ中の割合(%)は、各症状の有無が「不明」を除いた者を分母として算出。

就学・就労状況は、調査期間のうち症状があった期間における平均的な状況。

## 【小括】 2 症状の層別分析

### 【「多様な症状」の内容(症状の種類)】

- 「多様な症状」の内容(症状の種類)を、種々の特性別に比較したところ、「接種後発症」「接種歴なし」で同程度の割合で見られる症状と、「接種後発症」で割合が高い症状があった。
- 「年齢別」「接種から発症までの期間別」「症状の持続期間別」に見て、層別の違いはなかった。
- 「報告診療科別」「症状に関する主治医の判断・診断名別」に見た場合、「特別階層」「別表2\*」で、特定の症状について頻度が高いものもあった。

\* 主治医が「HPVワクチン接種による」又は「HPVワクチン接種後」と明示した傷病名で症状を説明できると判断した分類

### 【「多様な症状」の数】

- 「接種後発症」と「接種歴なし」の有する症状の数については、「年齢別」「接種から発症までの期間別」「症状の持続期間別」に見て、層別の違いはなかった。
- 「報告診療科別」「症状に関する主治医の判断・診断名別」に見た場合、「特別階層」「別表2\*」で、「症状の数が10以上である者」の頻度が高い傾向があった。

\* 主治医が「HPVワクチン接種による」又は「HPVワクチン接種後」と明示した傷病名で症状を説明できると判断した分類

## 平成28年12月26日 副反応検討部会における追加分析指示事項

### 3 症状の数が10以上である者の傷病名の分布

## HPVワクチン接種歴がなく「多様な症状」を有する女子のうち 症状の数が10以上である者(29名)の傷病名

発症時年齢12歳以上、取り扱い②

表の区分*	傷病名	別表別 人数	傷病名別 人数	別表別 報告診療科数	傷病名別 報告診療科数
別表1	過敏性腸炎1	1	1	1	1
別表2	—	0	0	—	—
別表3	起立性調節障害4、体位性頻脈症候群1	28	5	23	5
	適応障害3		3		1
	身体表現性障害3		3		3
	うつ病1、思春期うつ病1		2		2
	社会不安障害1、不安神経症1		2		2
	線維筋痛症1、若年性線維筋痛症1		2		2
	心身症1、心因性疼痛症1		2		2
	心的外傷後ストレス障害		1		1
	何らかの発達の偏り		1		1
	睡眠リズム障害		1		1
	自己免疫脳症		1		1
	脳脊髄液減少症		1		1
	慢性疲労症候群		1		1
	外傷性頸部症候群		1		1
神経性無食欲症	1	1			
虐待	1	1			
合計			29	24	27

\* 別表1: 主治医が、記載した傷病名で症状を「説明できない」と回答したもの(主病名)

別表2: 主治医が、記載した傷病名で症状を「説明できる」と回答し、「症状を最も説明できる」と指定した傷病名が「HPVワクチン接種による」又は「HPVワクチン接種後」と明示されているもの(「症状を最も説明できる」とした傷病名)

別表3: 主治医が、記載した傷病名で症状を「説明できる」と回答し、「症状を最も説明できる」と指定した傷病名が、HPVワクチン接種後に生じた多様な症状とは区別しがたい疾患であるもの(「症状を最も説明できる」とした傷病名)

## HPVワクチン接種後に発症し、「多様な症状」を有する女子のうち 症状の数が10以上である者(58名)の傷病名

発症時年齢12歳以上、取り扱い②

表の区分*	傷病名	別表別 人数	傷病名別 人数	別表別 報告診療科数	傷病名別 報告診療科数
別表1	起立性調節障害2、起立性低血圧1	22	3	16	2
	末梢性神経障害性疼痛2、神経障害性疼痛1		3		3
	片頭痛1、頭痛症1		2		2
	てんかん		1		1
	線維筋痛症		1		1
	低血圧		1		1
	アトピー性皮膚炎		1		1
	アレルギー性結膜炎		1		1
	ミオクローヌス		1		1
	右上肢振戦		1		1
	記憶力障害		1		1
	経口摂取困難		1		1
	虫垂炎		1		1
	難治性疼痛		1		1
	両膝関節症		1		1
	自己免疫脳症(HPVワクチン接種による)		1		1
	なし		1		1
別表2	自己免疫脳症(HPVワクチン接種による)	25	18	4	1
	HPVワクチン関連神経免疫異常症候群(HANS)		1		1
	HPVワクチン関連神経障害		1		1
	自己免疫性自律神経障害(HPVワクチン接種後)		1		1
	自律神経障害(HPVワクチン接種による)		1		1
	HPVワクチン関連頭痛		1		1
	片頭痛(HPVワクチン接種による)		1		1
起立性調節障害(HPVワクチン接種による)	1	1			
別表3	起立性調節障害3	11	3	8	3
	頭痛2		2		2
	倦怠感2		2		2
	解離性障害		1		1
	心身症		1		1
	複合性局所疼痛症候群		1		1
	左手足のしびれ		1		1
合計			58	28	40

\* 別表1(説明できない)は主病名、別表2、3(説明できる)は主治医が「症状を最も説明できる」とした傷病名

## HPVワクチン接種歴が不明であり、「多様な症状」を有する女子のうち 症状の数が10以上である者(26名)の傷病名

発症時年齢12歳以上、取り扱い②

表の区分*	傷病名	別表別 人数	傷病名別 人数	別表別 報告診療科数	傷病名別 報告診療科数
別表1	全身性エリテマトーデス	1	1	1	1
別表2	—	0	0	—	—
別表3	起立性調節障害5	25	5	18	5
	うつ病4、小児うつ病1		5		5
	身体化障害2、身体表現性障害1 持続性身体表現性疼痛障害1		4		2
	解離性障害2、転換性障害1		3		3
	統合失調症2		2		2
	適応障害		1		1
	不安障害		1		1
	広範性発達障害		1		1
	線維筋痛症		1		1
	機能的運動障害		1		1
	全身性ジストニア		1		1
合計		26	19	24	

\* 別表1(説明できない)は主病名、別表2、3(説明できる)は主治医が「症状を最も説明できる」とした傷病名

### 【小括】 3

#### 症状の数が10以上である者の傷病名の分布

女子について、接種歴別にみた上位3つの傷病名及び報告診療科数は以下の通りであった。

接種歴なし(N=29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 起立性調節障害<sup>*1</sup> 5人(5診療科)</li> <li>• 適応障害 3人(1診療科)</li> <li>• 身体表現性障害 3人(3診療科)</li> </ul>
接種後発症(N=58)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自己免疫脳症(HPVワクチン接種による) 18人(1診療科)</li> <li>• 起立性調節障害<sup>*2</sup> 7人(6診療科)</li> <li>• 頭痛<sup>*3</sup> 5人(5診療科)</li> </ul>
接種歴不明(N=26)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 起立性調節障害 5人(5診療科)</li> <li>• うつ病<sup>*4</sup> 5人(5診療科)</li> <li>• 身体化障害<sup>*5</sup> 4人(2診療科)</li> </ul>

( )内は、当該傷病名を報告した診療科数。例:3人(1診療科)は、1つの診療科から3人の報告があったことを示す。

<sup>\*1</sup> :「体位性頻脈症候群」と記載があった者を含む。

<sup>\*2</sup> :「起立性低血圧」「起立性調節障害(HPVワクチン接種による)」と記載があった者を含む。

<sup>\*3</sup> :「頭痛症」「片頭痛」「片頭痛(HPVワクチン接種による)」と記載があった者を含む。

<sup>\*4</sup> :「小児うつ病」と記載があった者を含む。

<sup>\*5</sup> :「身体表現性障害」「持続性身体表現性疼痛障害」と記載があった者を含む。

## 4 有訴率に影響しうる要因を考慮した分析

- 1) 「E群:接種歴不明」の接種率
- 2) 接種から発症までの期間(女子接種者のみ)
- 3) 症状の数

女子, 発症時年齢12歳以上

前回資料

HPVワクチン接種歴がなく「多様な症状」を有する  
推計患者数 及び 期間有訴率(2015年7月～12月)

	取り扱い①			取り扱い②		
	多様な症状の 推計患者数	期間有訴率の 分母*	期間有訴率 [人口10万人 あたり]	多様な症状の 推計患者数	期間有訴率の 分母*	期間有訴率 [人口10万人 あたり]
<b>(A) 接種歴なし</b>						
12歳	7	538,560	1.3	30	538,560	5.6
13歳	13	547,674	2.4	94	547,674	17.2
14歳	18	529,181	3.4	126	529,181	23.8
15歳	9	326,595	2.8	109	326,595	33.4
16歳	4	148,324	2.7	32	148,324	21.6
17歳	0	142,375	0	30	142,375	21.1
18歳	9	105,868	8.5	35	105,868	33.1
<b>12～18歳</b>	<b>66</b>	<b>2,338,577</b>	<b>2.8</b>	<b>477</b>	<b>2,338,577</b>	<b>20.4</b>
<b>(A) 接種歴なし + (E) 接種歴不明</b>						
12歳	11	538,560	2.0	45	538,560	8.4
13歳	13	547,674	2.4	141	547,674	25.7
14歳	25	529,181	4.7	244	529,181	46.1
15歳	22	326,595	6.7	216	326,595	66.1
16歳	14	148,324	9.4	155	148,324	104.5
17歳	8	142,375	5.6	160	142,375	112.4
18歳	18	105,868	17.0	95	105,868	89.7
<b>12～18歳</b>	<b>120</b>	<b>2,338,577</b>	<b>5.1</b>	<b>1,081</b>	<b>2,338,577</b>	<b>46.2</b>

\* 2015年10月1日時点での、性・年齢階級別推計累積接種者数及び未接種者数。(厚生労働省提供資料を利用。詳細は別紙参考資料参照)

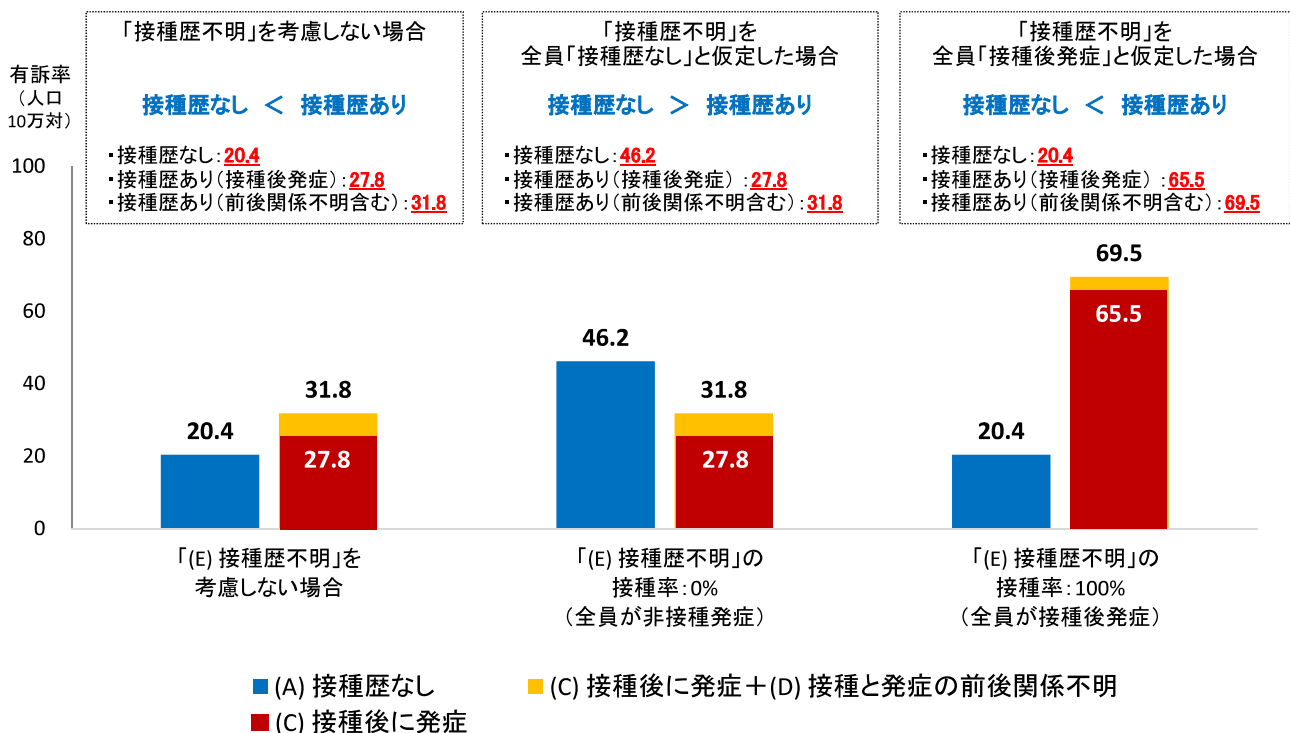
HPVワクチン接種後に発症し、「多様な症状」を有する  
推計患者数 及び 期間有訴率(2015年7月～12月)

	取り扱い①			取り扱い②		
	多様な症状の 推計患者数	期間有訴率の 分母*	期間有訴率 [人口10万人 あたり]	多様な症状の 推計患者数	期間有訴率の 分母*	期間有訴率 [人口10万人 あたり]
<b>(C) 接種後に発症</b>						
12歳	0	540	0	0	540	0.0
13歳	0	4,026	0	0	4,026	0.0
14歳	14	34,619	40.4	21	34,619	60.7
15歳	22	245,805	9.0	31	245,805	12.6
16歳	126	425,476	29.6	168	425,476	39.5
17歳	107	434,325	24.6	150	434,325	34.5
18歳	43	457,532	9.4	114	457,532	24.9
<b>12～18歳</b>	<b>291</b>	<b>1,602,323</b>	<b>18.2</b>	<b>445</b>	<b>1,602,323</b>	<b>27.8</b>
<b>(C) 接種後に発症 + (D) 接種と発症の前後関係不明 + (E) 接種歴不明</b>						
12歳	4	540	740.7	15	540	2777.8
13歳	0	4,026	0.0	47	4,026	1167.4
14歳	21	34,619	60.7	142	34,619	410.2
15歳	35	245,805	14.2	146	245,805	59.4
16歳	140	425,476	32.9	316	425,476	74.3
17歳	120	434,325	27.6	303	434,325	69.8
18歳	52	457,532	11.4	174	457,532	38
<b>12～18歳</b>	<b>353</b>	<b>1,602,323</b>	<b>22.0</b>	<b>1,113</b>	<b>1,602,323</b>	<b>69.5</b>

\* 2015年10月1日時点での、性・年齢階級別推計累積接種者数及び未接種者数。(厚生労働省提供資料を利用。詳細は別紙参考資料参照)

4-1) 女子における「多様な症状」の期間有訴率(2015年7月～12月) の分析  
(多様な症状の取り扱い②, 調査時年齢12～18, 発症時年齢12歳以上)

「(E) 接種歴不明」の接種率を0%～100%に変化させた場合



## 【小括】 4 有訴率に影響しうる要因を考慮した分析

### 1) 「E群:接種歴不明」の接種率

接種歴不明例の取り扱い方により、有訴率が

A群:接種歴なし < C群:接種後発症 にも

A群:接種歴なし > C群:接種後発症 にもなった

平成28年12月26日 副反応検討部会における追加分析指示事項

## 4 有訴率に影響しうる要因を考慮した分析

1) 「E群:接種歴不明」の接種率

2) 接種から発症までの期間(女子接種者のみ)

3) 症状の数

HPVワクチン接種後に発症し、「多様な症状」を有する  
推計患者数 及び 期間有訴率(2015年7月～12月)

	取り扱い①			取り扱い②		
	多様な症状の 推計患者数	期間有訴率の 分母*	期間有訴率 [人口10万人 あたり]	多様な症状の 推計患者数	期間有訴率の 分母*	期間有訴率 [人口10万人 あたり]
<b>(C) 接種後に発症</b>				直近接種～発症の期間を 限定した場合(次項)		
12歳	0	540	0	0	540	0.0
13歳	0	4,026	0	0	4,026	0.0
14歳	14	34,619	40.4	21	34,619	60.7
15歳	22	245,805	9.0	31	245,805	12.6
16歳	126	425,476	29.6	168	425,476	39.5
17歳	107	434,325	24.6	150	434,325	34.5
18歳	43	457,532	9.4	114	457,532	24.9
<b>12～18歳</b>	<b>291</b>	<b>1,602,323</b>	<b>18.2</b>	<b>445</b>	<b>1,602,323</b>	<b>27.8</b>
<b>(C) 接種後に発症</b> + <b>(D) 接種と発症の前後関係不明</b> + <b>(E) 接種歴不明</b>						
12歳	4	540	740.7	15	540	2777.8
13歳	0	4,026	0.0	47	4,026	1167.4
14歳	21	34,619	60.7	142	34,619	410.2
15歳	35	245,805	14.2	146	245,805	59.4
16歳	140	425,476	32.9	316	425,476	74.3
17歳	120	434,325	27.6	303	434,325	69.8
18歳	52	457,532	11.4	174	457,532	38
<b>12～18歳</b>	<b>353</b>	<b>1,602,323</b>	<b>22.0</b>	<b>1,113</b>	<b>1,602,323</b>	<b>69.5</b>

\* 2015年10月1日時点での、性・年齢階級別推計累積接種者数及び未接種者数。(厚生労働省提供資料を利用。詳細は別紙参考資料参照)

4-2) HPVワクチン接種後に発症し、「多様な症状」を有する患者の  
期間有訴率(2015年7月～12月):直近接種～発症の期間別

	取り扱い②		
	直近接種～ 発症の期間	二次調査報告症例中、 「直近接種～発症」が 当該期間の者が占める割合	12～18歳における 期間有訴率 [人口10万人あたり]
接種後発症	(考慮せず)	1.00	27.8
	1年以内	0.63	17.5
	6ヵ月以内	0.55	15.3
	3ヵ月以内	0.41	11.4
	1ヵ月以内	0.31	8.6
接種歴なし(参考)	—	—	20.4



## 【小括】 4 有訴率に影響しうる要因を考慮した分析

### 2) 接種から発症までの期間(女子接種者のみ)

「接種後発症」と報告された患者について、  
「直近接種～発症」の期間を  
「1年以内」「6ヵ月以内」「3ヵ月以内」「1ヵ月以内」と短くするに従って、  
有訴率は減少し(1ヵ月以内では約1/3)、「接種歴なし」よりも低くなる  
場合があった。

平成28年12月26日 副反応検討部会における追加分析指示事項

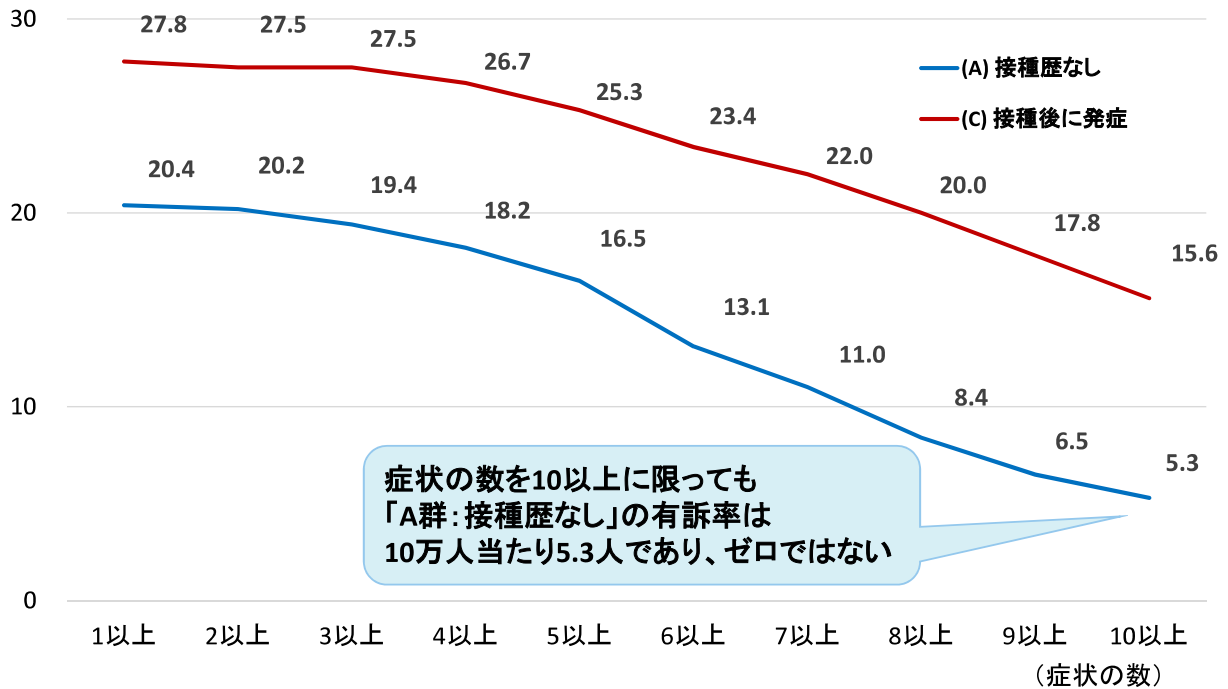
## 4 有訴率に影響しうる要因を考慮した分析

- 1) 「E群:接種歴不明」の接種率
- 2) 接種から発症までの期間(女子接種者のみ)
- 3) 症状の数

## 4-3) 女子における「多様な症状」の期間有訴率(2015年7月~12月)の分析 (多様な症状の取り扱い②, 調査時年齢12~18, 発症時年齢12歳以上)

### 症状の数ごとにみた場合

有訴率(人口10万対)



### 【小括】 4 有訴率に影響しうる要因を考慮した分析

#### 3) 症状の数

- 症状の数を多くすると、有訴率は低くなった。
- 症状の数を多くしても、  
「C群: 接種後発症」の有訴率は、「A群: 接種歴なし」よりも高かった。
- 症状の数を10以上に限っても、  
「A群: 接種歴なし」の有訴率は、10万人当たり5.3人であり、  
ゼロではなかった。

## 疫学調査(祖父江班) 追加分析結果について (まとめ)

### 【「多様な症状」の内容(症状の種類)】

- ① 「多様な症状」の内容(症状の種類)を、種々の特性別に比較したところ、「接種後発症」「接種歴なし」で同程度の割合で見られる症状と、「接種後発症」で割合が高い症状があったが「年齢別」「接種から発症までの期間別」「症状の持続期間別」に見て層別の違いはなかった。「報告診療科別」「症状に関する主治医の判断・診断名別」に見た場合、「特別階層」「別表2\*」で、特定の症状について頻度が高いものもあった。

\* 主治医が「HPVワクチン接種による」又は「HPVワクチン接種後」と明示した傷病名で症状を説明できると判断した分類

### 【「多様な症状」の数】

- ② 「接種後発症」と「接種歴なし」の有する症状の数については、「年齢別」「接種から発症までの期間別」「症状の持続期間別」に見て、層別の違いはなかった。「報告診療科別」「症状に関する主治医の判断・診断名別」に見た場合、「特別階層」「別表2\*」で、「症状の数が10以上である者」の頻度が高い傾向があった。

\* 主治医が「HPVワクチン接種による」又は「HPVワクチン接種後」と明示した傷病名で症状を説明できると判断した分類

### 【有訴率に影響しうる要因を考慮した分析】

- ③ 「接種歴不明」の取り扱い方によって、「接種歴あり」と「接種歴なし」との間で、「多様な症状」の有訴率(10万人あたり患者数)が逆転する場合があった。
- ④ 「接種後発症」と報告された患者について、「直近接種～発症」の間を、「1年以内」「6か月以内」「3か月以内」「1か月以内」と短くするに従って、有訴率は減少し(1か月以内では約1/3)、「接種歴なし」よりも低くなる場合があった。
- ⑤ 有する症状の数を「少なくとも1つ」から「10以上」に増加させた場合、有訴率は減少するものの、「接種歴なし」においても、10万人あたり5.3人存在すると推定された。

## 疫学調査(祖父江班) 調査実施にあたっての前提

- ① 本調査の目的は、以下の通りである。
- 「多様な症状」があり、HPVワクチン接種歴のない患者の人数と有訴率を全国規模で推計する。
  - それにより、HPVワクチン接種歴のない者においても、HPVワクチン接種後に報告されている症状と同様の「多様な症状」を有する者が、一定数存在するかを確認する。
- ② HPVワクチン接種と接種後に生じた症状との因果関係について言及する調査ではない。

## 疫学調査(祖父江班) 調査結果の解釈にあたっての前提

HPVワクチン接種歴の有無別に、「多様な症状」の有訴率や内容(症状の種類・症状の数)を比較することは、以下の点から困難である。

- 「接種歴なし」と「接種歴あり」の年齢分布が極端に異なること
- 種々のバイアス(偏り)が存在すること

## 疫学調査(祖父江班) 結論

HPVワクチン接種歴のない者においても、  
HPVワクチン接種後に報告されている症状と同様の  
「多様な症状」を有する者が、一定数存在した。